

2007年度 事業報告書

学校法人南山学園

事業報告書

1. 法人の概要

1) 南山学園学生・生徒数一覧表

南山大学

(1) 大学院・博士前期課程・修士課程

研究科	学生数	収容定員
人間文化研究科	97	76
外国語学研究科	1	0*
国際地域文化研究科	28	40
経済学研究科	13	30
ビジネス研究科	15	20
総合政策研究科	18	60
数理情報研究科	68	160
合計	240	386

*2004年4月改組により募集停止

(2) 大学院・博士後期課程

研究科	学生数	収容定員
文学研究科	3	0*
人間文化研究科	26	30
経済学研究科	0	15
ビジネス研究科	1	15
総合政策研究科	6	15
数理情報研究科	9	30
合計	45	105

*2004年4月改組により募集停止

(3) 専門職学位課程

研究科	学生数	収容定員
ビジネス研究科	76	100
法務研究科	155	150
合計	231	250

(4) 学部

学部	学生数	収容定員
人文学部	1,535	1,370
外国語学部	1,873	1,604
経済学部	1,157	1,000
経営学部	1,114	920
法学部	1,238	1,040

総合政策学部	1,561	1,260
数理情報学部	944	840
合計	9,422	8,034

(5) 外国人留学生別科(正規生) 128名

南山短期大学

学 科	学生数	収容定員
英 語 科	589	500

南山高等学校

区 分	生徒数	収容定員
男 子 部	601	600
女 子 部	599	600
合 計	1,200	1,200

南山国際高等学校

生徒数	収容定員
436	520

聖霊高等学校

生徒数	収容定員
690	720

南山中学校

区 分	生徒数	収容定員
男 子 部	601	600
女 子 部	613	600
合 計	1,214	1,200

南山国際中学校

生徒数	収容定員
290	320

聖霊中学校

生徒数	収容定員
598	600

南山大学附属小学校

生徒数	収容定員
280	270

学園合計（別科を除く）

学生・生徒数	収容定員
15,235	14,105

2) 役員・専任職員数

[役員・評議員数]

理事長・副理事長

	現員	定員
理事長	1	1
副理事長	1	1

理事

	現員	定員
理事	15	15～19

監事

	現員	定員
監事	2	2

評議員

	現員	定員
評議員	33	33～41

[専任教育職員数]

南山大学

学部・研究科等	専任教育職員					計
	学長	教授	准教授	講師	助教	
人文学部	(1)*	39	24	10	1	74
外国語学部		34	15	5	0	54
経済学部		15	6	0	0	21
経営学部		6	8	2	0	16
法学部		9	4	2	0	15
総合政策学部		24	20	10	0	54
数理情報学部		19	6	11	0	36
ビジネス研究科		9	5	0	0	14
法務研究科		16	0	0	0	16
英語教育センター		0	0	10	0	10
合計	(1)*	171	88	50	1	310

南山短期大学

専任教育職員				計
学 長	教 授	准教授	講 師	
(1)**	1 0	7	6	2 3

南山高等・中学校

	校 長	副校長	教 諭	養護教諭	講 師	計
男 子 部		(1)*	5 0	1	5	5 6
女 子 部	(1)*	(1)*	4 9	1	4	5 4
合 計	(1)*	(2)*	9 9	2	9	1 1 0

南山国際高等・中学校

校 長	教 諭	養護教諭	講 師	計
(1)**	3 3	1	3	3 7

聖霊高等・中学校

校 長	副校長	教 諭	養護教諭	講 師	計
1	(1)*	5 9	2	3	6 5

南山大学付属小学校

校 長	教 頭	教 諭	養護教諭	講 師	計
(1)**	(1)*	2 0	1		2 1

南山学園専任教育職員数合計

5 6 6

()*の数字は内数、()**は他単位と兼任

[専任事務職員等数]

区 分	専任職員	教務助手	専任嘱託	実験助手	計
法 人 事 務 局	2 1		3		2 4
南 山 大 学	1 3 3	1	3 5		1 6 9
南 山 短 期 大 学	1 1		1		1 2
南 山 高 等 学 校	8			2	1 0
南 山 国 際 高 等 学 校	4		1	1	6
聖 霊 高 等 学 校	5				5
南 山 中 学 校	7				7
南 山 国 際 中 学 校	1		1		2
聖 霊 中 学 校	2				2
南山大学附属小学校	3				3
合 計	1 9 5	1	4 1	3	2 4 0

2. 事業の概要

【学園全般】

1. 理事長基本方針と学園総合教育検討への取り組み

【南山大学附属小学校の開設の準備】

2006年度に学園総合教育検討プロジェクト・チームで検討された結果を踏まえ、学園創立75周年記念事業として南山大学附属小学校の開設という形での学園総合教育の実現に取り組んだ。

2008年4月の南山大学附属小学校開校に向け、2006年度より大学を中心としてその設立準備が進められてきた。2007年12月から2008年1月にかけて実施された入学者選考では、志願者数1,189名のうち286名の児童が合格した。

2008年3月7日には愛知県知事より小学校設置の認可を受け、同日付で文部科学大臣から学校法人寄附行為変更が認可された。

2008年3月22日には南山大学附属小学校新校舎の定礎式および校章・十字架の除幕式ならびに竣工式に続き、開校式が挙行された。

2007年度より学園全体の総合教育の完結を目指し、南山大学附属小学校と学園内の中学・高等学校との教育の連携について、教科教育の一貫性、児童・生徒間交流など具体的な検討を開始した。また、南山大学としては、大学附属の小学校設置を受けて、大学を中心とした学園内各設置校との教育の連携の下で、大学が果たし得る役割について、積極的に検討を行なっていくこととした。

2. 施設・設備等の整備およびアスベスト工事

南山大学名古屋キャンパスでは、新設されたC棟3階に学生課と教務課が移転し、5月より業務を開始した。同一フロアに両課が統合されたことで、学生サービスを充実させるための連携がより迅速に行なえるようになった。また、食堂および売店施設（コパン3階、C棟1・2階）をリニューアル、新設した。さらに、教室の視聴覚機器の更新や増設（G棟5教室・J棟4教室・DB1教室）を行ない、教育環境のさらなる充実に努めた。

南山大学瀬戸キャンパスでは、アメニティ充実のため、ビオトープを含むウォーターガーデン（流水施設）を建設した。また、老朽化したLLシステムを撤去し、e learningライブラリーを開設するとともに、新たな語学学習システムを導入した。

南山高等・中学校（男子部）では、夏休み期間中にチャペルおよび大教室舞台天井のアスベスト、中学校校舎廊下天井部分のアスベスト除去工事を行ない、校舎内から全てのアスベストを除去することができた。南山高等・中学校（女子部）では、プール天井のアスベスト完全除去し、併せてプールサイドの補修も実施した。

南山国際高等・中学校では、空調機器について、2007年度から教室棟を優先に4年計画の事業計画を立て、先ず、中学棟の空調機器改修を実施した。また、生徒数増加に対応するために、大教室を二分しHR教室として使用できるように改修した。

3 . 南山学園内における連携推進の強化

南山学園では、学園内連携推進協議会において、理事長基本方針における「南山大学を中心として」の教育の連携に係る具体化について継続的に検討を行なった結果、初等教育からの一貫教育の趣旨を達成、向上させることを目的に小中高協議会を設置した。小中高協議会には、教科研究部会、小中高児童生徒交流部会、進学部会の3つの部会も設置されている。

南山大学と南山短期大学との連携では、2007年度より南山大学との単位互換制度がスタートした。春学期において、南山短期大学から6名の学生が南山大学名古屋キャンパス開講の7科目の聴講を、南山大学から2名の男子学生が学科科目1科目の聴講をそれぞれ許可された。秋学期には南山短期大学から9名の学生が12科目を、南山大学から2名の女子学生が学科科目3科目を聴講した。

南山大学と南山高等・中学校(男子部)との連携では、高校2年生が南山大学で開催された法学部の模擬授業に参加し、大学への関心および法学部への興味を深めた。また、南山大学外国語学部教授を南山高等・中学校(男子部)に招き、模擬授業を実施した。

南山大学と南山高等・中学校(女子部)との連携では、高校1年生対象の大学説明会、高校2年生、高校3年生対象の南山大学説明会を実施した。保護者の集いである育友会主催の南山大学見学会も例年通り実施した。

南山大学と南山国際高等・中学校との連携では、高校3年生が南山大学総合政策学部で受講する科目を南山国際高等・中学校の英語の単位(3単位)として認定している。2007年度は英語力の高い南山国際高等・中学校生徒の人数にあわせて、前年度までの20名から25名に受講生数を増員した。同様に、南山大学数理情報学部と理系生徒のために授業の連携を目指して協議した結果、昨年度に引き続き、夏期休暇期間中に体験講座を実施した。

南山大学と聖霊高等・中学校との連携では、2006年度に津村俊充教授(南山大学人文学部)の指導を仰いだ「協同学習」の取り組みが、2007年度には中学1年から高校2年までの5学年で実施した。同じく南山大学の浦上昌則准教授らの指導を受けた「キャリア教育」についても多くの学年で実践した。

南山短期大学と南山国際高等・中学校との連携では、英語教育系列の学生31名と引率教育職員2名が南山国際高等・中学校を訪問し、高校2年英語、中学1年理科、中学2年美術の授業を参観し、スピーチコンテストを見学した。学生にとって中等教育の現場に接する貴重な経験となり、また授業中の先生や生徒の様子から多くのことを学ぶとともに、設置校間の相互理解を進めることができた。

南山短期大学と南山国際高等・中学校との連携では、校内説明会を開催し、生徒・保護者の参加者があわせて130名程度となり盛況であった。結果、本年度の南山短期大学進学者は10名を数えた。さらに、連携事業として南山大学人間関係研究センターに依頼し、教職員のための現職研修会として、楠本和彦准教授(臨床心理士)を講師に招き「精神的な問題を抱えた生徒のケア」について研修した。

南山高等・中学校では、男子部と女子部との教育職員交流研修制度が承認され、2008年度から1名が制度の適用を受けることとなった。

4. 学園創立 75 周年記念事業

・学園創立 75 周年記念ミサおよび記念式典の実施

創立から今日までの先人へ感謝するとともに学園のさらなる発展を願い、11月1日南山教会にて記念ミサを開催し、11月18日愛知県芸術劇場コンサートホールにて記念式典を開催した。

・学園創立 75 周年記念フェスティバルの実施

11月18日学園創立 75 周年記念式典に続き、愛知県芸術劇場大ホールにて宗教劇「受難」を上演した。

・学園創立 75 周年記念ツアーの実施

2007年8月6日から10日までの5日間、「キリシタンの歴史に触れる旅」と題して長崎・雲仙・五島を巡るツアーを実施した。なお、同時に計画をしていた、2つの海外旅行と夏の国内旅行1コースは都合により中止となった。

・学園創立 75 周年記念誌の発行

学園関係者をはじめとする多くの執筆者の協力を得て、2007年11月1日632頁（索引18頁）におよぶ「HOMINIS DIGNITATI 1932 - 2007 南山学園創立 75 周年記念誌」を刊行した。

【南山大学】

・将来構想

1. グランドデザインの具現化に向けた取組

「南山大学における『20年後の将来像』について（最終報告）」と題する報告書にまとめられた「南山大学グランドデザイン」*に基づき、各学部（学科）・研究所・大学院においても将来像の検討が行なわれ、それぞれのグランドデザインが策定された。「南山大学グランドデザイン」に謳われたビジョンは、「人種、障がい、宗教、文化、性別など、様々な違いを認識し、多様性を前提とした人間の尊厳、他者の尊厳を大切に、人々が共生・協働することで、新たな価値の創造に貢献する」というものである。これを端的に表す「個の力を、世界の力に。」というキーワードが、2007年度には南山大学の様々な広告に掲げられた。来年度以降は、学生受け入れにおける地域・年齢・国籍などの幅を広げる「ユニバーサル受け入れ」実現のための制度作りなど、具体的な施策の検討を進めることとした。

*：南山大学グランドデザインWebページへ

・教育・研究・社会貢献

1. 外国語教育のさらなる改革

名古屋キャンパスに「英語教育センター」を開設し、2007年度春学期より習熟度別クラス編成を導入した。同年10月にはセンター1階ロビーにワールドプラザも併設され、学生の自主的な語学学習支援を展開している。また、未修外国語教育については、共通

教育外国語科目の継続科目として、学科外国語科目を他学科の学生も履修できるようにした。2007 年度に設置されたマルチメディア教育ワーキンググループを中心として、情報教育と外国語教育との連携、ならびに図書館機能の統合をも視野に入れて検討することとした。

2．キャリア教育の推進

キャリア教育推進委員会とインターンシップ委員会を統合して新たに設置したキャリアサポート委員会の下、全学的なキャリアサポートプログラムが企画・実施した。外国語学部では学生のキャリア形成への意欲をサポートするため、秋学期に「キャリアデザイン」という新たな科目が学部共通科目として開講した。

3．学外連携と地域社会への貢献

2007 年春に実践的な教育と研究を目的として南山大学法曹実務教育研究センターが設置され、その一環としてリーガルクリニック(法律相談)も7月以来3度実施された。また、5年間主催幹事校を務めることとなっている名古屋アメリカ研究夏期セミナーの第1回目が2007年7月末に開催された。豊田工業大学との連携講演会(第2回)や南山大学連続講演会(第3回)も順調に回を重ね、多くの出席者を得ることができた。

2008年度の連続講演会は、大学院担当教員を中心に、各々の教育・研究分野を講演テーマとして開催することとした。

4．外部研究資金の獲得と組織的研究支援と教員の資質向上と学習支援体制の整備

人文学部と人間文化研究科の取り組みが文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に、数理情報研究科の取り組みが同「オープン・リサーチ・センター整備事業」に、それぞれ選定された。

科研費の獲得については、学内研究費の傾斜配分制度を導入するとともに、研究計画書作成に向けた説明会の開催など教育・研究支援事務室による支援体制を強化し、申請件数の増大を図った。また、2007年4月には「南山大学『人を対象とする研究』倫理ガイドライン」が施行され、個人を対象として意見、行動、環境、心身等に関するデータ等を収集・採取して行なわれる研究活動に関し、研究実施の可否を審査する体制が整えられた。今後とも、大学全体の研究力の強化向上を目指し、恒常的かつ組織的研究支援体制の整備に努めていくこととした。

教員の資質向上と学習支援体制の整備としては、教員評価プロジェクト・チームによる答申が提出され、教員の昇格に関する各学部の上乗せ基準の策定がなされた。学生による授業評価も、より厳正な方式により継続的に行なわれている。他方、従来の学生相談室の機能(カウンセリング機能)を拡充し、学習支援を中心に学生生活全般にわたる様々な問題についての総合相談機能を果たす学生相談窓口を名古屋キャンパスおよび瀬戸キャンパスに開設した。また、学部・学科レベルでのリメディアル教育の試みとして、再履修クラスの充実化も図られた。

・入試と広報

地道な高校訪問、模擬授業、大手予備校との連携を組み込んだオープンキャンパス、バスツアー、体験入学会、高校教員対象説明会、保護者のためのオープンキャンパスなど、対面重視型の入試広報の成果もあり、2008年度入試(2007年度実施)の志願者数は22,191名に達し4年連続で過去最高を更新した。入試広報の新たな試みとしては、学生入試広報スタッフを中心に、南山大学の魅力を高校生に向けて情報発信するWebサイト(n-cast+)を開設した。また、人文学部心理人間学科では、初めてA0入試を実施した。今後は、「ユニバーサル受け入れ」の実現を含む、入試制度のさらなる改革を行なっていく予定である。

さらに、大学戦略広報では、地元浸透するブランドを全国に広めることを目指し、関東・関西地区トレインジャックや新幹線セットパネル等の交通広告、インターネットCM、ラジオCMなど、複数の媒体を使って相乗効果を上げていくメディアミックス広報を戦略的に展開した。関東・関西の有力大学による中部地方の受験生獲得の動きを見据え、引き続き足元を固めながら全国展開を進めることが継続的課題となっている。今後はさらなる志願者増を目指し、入試広報と大学戦略広報を有機的に連携させ、長期的な視点に立って広報のあり方を検討していくこととした。

【南山短期大学】

1. 自己点検・評価

2006年度実施の第三者評価の結果をふまえて、各委員会において、教育研究の改善・充実への具体的な議論を重ね、ファカルティ・ディベロップメント活動や学生による授業評価の実施を含めて、問題点の改善に着実に取り組んだ。2008年度においては、将来構想実現への検討と合わせて、教育研究のさらなる発展に向けた論議を活発にしていくこととした。

2. 新カリキュラム施行、および、教育研究環境の整備

2000年度に導入したカリキュラムの特徴を継承しつつ、体系的で効率的な学習を促進して、より実践的な英語運用能力を育成する新カリキュラムをスタート(2007年度新入生から適用)させ、その目標の達成に向けて全学を挙げて取り組んだ。2008年度は、新カリキュラム完成年度として、新カリキュラムが一層の教育効果を上げるよう細部の調整を図り、円滑な運用に努めていくこととした。

3. ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の推進

2007年度において教育職員全員参加のFD会を6回開催し、授業改善に関わる様々な課題について議論を重ね、具体的な対応策を実行に移した。実行に結びついたものとしては、学生による授業評価の内容の検討、シラバスの内容と表記の充実、「南短サクセスガイド2008」の作成、文法クラス受講生数の少人数化、文法クラスの一部習熟度別クラス分けなどが挙げられる。

また、オーラルコミュニケーション担当の外国人教育職員によるFD会を7回行ない、

授業内容、実施方法、教材等について検討するとともに、年間計画の策定・調整を行ない、適切に授業に反映させている。

4. 学生による授業評価の実施

2006年度までの実施状況等をふまえて、自己点検・評価評価委員会において設問内容の見直しを行ない、またFD会で出された意見を考慮して、評価項目を24項目に絞り、2007年12月10日から12月21日までの期間に調査を実施した(一部の科目は2008年1月11日までの間に実施)。この結果をもとに『学生による授業評価 2007』を作成、配布した。

【南山高等・中学校(男子部)】

1. 聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養

聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養に関する授業・行事について、昨年度に引き続き中学宗教科のメンバーがより現場に関わる人事を組むこととした。男子部で講演した人物(10名程度)をその言葉とともに写真パネルにする計画を進め、先ず3名の人物の写真パネルが図書室にそろうことになった。

2. 学習・生活指導の充実

学習指導の充実では、「確実な学力の育成」を目標に、教科担当者間の引継ぎ徹底および授業時数の確保、および、中学校定期考査の新しい評価・評定を実施した。また、中学校学習アンケートを実施して、生徒の実態把握に努め、新しい評価法と再テストを行ない、学力不振者の指導強化を図った。

生活指導の充実では、「安全・健康・美化」のテーマに沿って、主体的に生活実践できる生徒の育成を目指し、日常的指導に重点を置いた。学校全体でマナー指導を訴え、特に下校時の地下鉄「いりなか」駅近辺のゴミ問題に関して、生徒会と連携し検討した結果、南山高等・中学校(男子部・女子部)、中京大中京高校との合同清掃の実施が実現した。

3. オーストラリア研修旅行・イタリア・キリスト教文化研修旅行

「国際的視野の育成と語学研修」を目標として、オーストラリア研修旅行(7月21日～8月9日:20日間31名参加)を実施した。また、オーストラリア協力校からの研修生受け入れ(1月10日～20日:11日間4名)、南山高等・中学校(男子部)生徒宅にホームステイしながら、特別カリキュラムに参加した。参加者および保護者に対する実施後のアンケートは共に高い評価を得ており、研修生の来校は、受け入れ家庭の生徒だけでなく、学年全体にとってもよい影響を与えることができた。

「キリスト教精神理解の一助と国際的視野の育成」を目標として、イタリア・キリスト教文化研修旅行(12月23日～12月30日:8日間40名)を実施した。ローマ、フィレンツェ、ミラノを訪問し、キリスト教精神の理解を深めた。

【南山高等・中学校(女子部)】

1．建学の精神の具現化

キリスト教精神に基づく価値観の育成、宗教心・公共心の涵養。「人間の尊厳のために」というモットーに照らし合わせ、教育活動を実施するとともに、カトリック校としての「面倒見の良さ」と、私学としての「フットワークの良さ」を具現化として、次の通り取り組みをした。今年度から総務部・教務部・進路部・指導部および教頭統括の委員会だけでなく、各学年担任会からの反省も集約するようにした。授業に関する生徒アンケートなども参考にし、各教科で授業内容の点検・改善に努めた。担任が過重負担にならないように、可能な限り副担任を置き(6学年中5学年)、よりきめ細かい個別相談を行った。スクールカウンセラーに講師を依頼し、心に重荷を抱えた生徒たちへのサポートについての学習会を2度実施した。また、家庭内暴力の被害生徒の避難所探しなど、緊急の課題に対応するために「校内サポート委員会」を設置した。今年初めて、岐阜の私立中学進学フェア、佐鳴予備校・敬愛塾などの説明会に参加し、学校紹介の講演や参加者の個別相談に応じた。

2．体系的六カ年一貫教育の確立

南山高等・中学校(女子部)では、学習指導の縦断的・横断的なつながり(6カ年の縦のつながりだけではなく、教科間の横のつながりも含めた体系性)の確立のため、昨年完成した中高6カ年一貫の手引き書について、高等学校については、前年度とほぼ同様の内容であるが、『中学学習の手引き』の内容をより詳述拡充した。また、学年別進路の手引きについては、教員執筆の学習法(高2高3の数学などを新規掲載)を充実させ、6カ年で11冊の『進路の手引き』を配付し、各自の将来構想の充実を図ることができた。

行事面では、6カ年の体系性という観点からの行事全体のつながりの見直しを進めている。授業内容については、各教科での6カ年一貫について論議が進められ、教員の問題意識も高められた。校則指導としては、守るべき校則のポイントを具体的に提示し、個別指導を徹底した。また、清掃指導では、分別の徹底と減量の指導で、着実な成果を上げ、今年度は、男子部・中京高校と連携し、「いりなか駅周辺合同清掃」も実施した。

3．開かれた学校づくり

全教職員で取り組む広報活動、生徒募集活動として、学校説明会、新校舎見学の充実、説明会資料、広報誌、Webページなどの拡充、および、SPP(サイエンス・パートナーシップ)、総合学習その他による学外学識経験者との知的交流、さらに、授業参観の実施の制度化の拡充を行った。SPPでは、京大霊長類研究所出身の竹ノ下祐二先生やケミカルバイオロジーの柴田哲男先生(名工大)との知的交流を図ることができた。また、ヒルシユスプルング病に苦しむ卒業生の子弟を救うための活動に、教員・生徒会ともに協力し、「開かれた学校づくり」の一環として募金活動を行った。

【南山国際高等・中学校】

1. ノースカロライナ・ホープウエル高校との短期留学制度の実施と国際交流

語学研修と共に生徒同士の交流を通しての異文化理解を促す目的で、アメリカ・ノースカロライナ、ホープウエル高校へ2週間(2007年3月21日~4月5日)実施した。本年度の生徒参加者は10名であった。付き添い教諭は2名とし、内1名は英語担当以外の教諭とした。教諭も生徒と同様にホームステイをすることによる交流を通じ、国際感覚を身に付け、南山国際校での教育に役立つように実施した。

また、2007年5月19日~29日にホープウエル高校より生徒15名、教員2名を本校に受け入れた。校内での交流、またホームステイを受け入れることにより日常生活からも国際交流の機会をもつことができた。さらに生徒会、PTAの協力も得て、全校レベルでの活動とすることができ、一部地元新聞紙上での紹介もなされ、本校のPRともなった。2008年1月24日には、ホープウエル校校長をはじめとする米国同地域の高校校長の視察団が本校を訪れ、当交流制度の実施に対して、感謝の意を伝えられた。

2. 語学教育の拡充と情報教育

英語教育では、英語による教科授業を高校各学年の宗教科「キリスト教思想」の授業で実施した。また、習熟度別授業を全学年で実施し、英語教育の充実に努めた。さらに、フランス語・スペイン語授業の開講と、生徒による諸外国語による朝の祈りを実施し、生徒の語学力向上、国際性の涵養をはかった。

編入生・外国人生徒への語学教育の拡充として、日本語の特別クラスを開講した。

情報教育では、コンピュータ教室、および、メディアセンターにインターネット接続可能なコンピュータを設置し、生徒に個別アドレスを付与することで、情報教育はもとより、放課時間等に生徒がインターネットを自由に使用できるようにして国際性を養えるようにした。

【聖霊高等・中学校】

1. 志願者数拡大のための方策検討およびその具現化

学習指導の充実

南山大学との連携事業である「協同学習」、「キャリア教育」の他に、学習会や「強制」補習などの学習指導の展開、高校進学補習や大学入試センター試験対策も、生徒の参加規模が拡大した。こうした指導により、生徒の多様な方面への進学希望を実現させた。

学校評価

大学進学実績や、保護者アンケートに見る満足度についての指標が向上してきていることが、年度末の自己点検・評価で確認できた。2008年度入試の志願者数は、前年度比較で中学は13名増加、高校は19名減少と大きな改善は見られなかったが、入試判定の正確な歩留まり予測により、中学・高校ともほぼ定員通りの入学者を迎え入れることができた。

土曜日のあり方

土曜日について、2007年度は年4回の「土曜セミナー」を全員出勤とし、父母や卒業

生らの講師拡大とあわせて、セミナーの講座数拡大を狙った。更に 2007 年度土曜セミナー特別講座として、アルピニストの野口健講演を一般公開の講座として実施した。新聞報道や独自広告により、生徒・父母に加えて一般来校者の参加も多く、あわせて約 450 名の参加者で成功裏に終わった。

他団体との連携

学校評価や学校広報活動にとって、父母や同窓生らの組織を重要なパートナーとして位置づけ、助言を仰いだり、広報の方法論について意見を求めたりした。具体的には、2008 年度に向けて「同窓生のための学校説明会」という新たな企画を立ち上げるに至った。父母の会元役員との再会の機会でも、聖霊を応援したいという思いを訴えられており、聖霊を取り巻く人々の存在を痛感した。

2. 生徒募集対策としての学校公開日の更なる充実・改革

「聖霊で学びたい層」の発掘、拡大を目指し、前年度に引き続き「更なる公開日の充実とプレテスト応募者の拡大を目指して」を重点に、学校公開日における低学年対象の体験授業を実施、および、2 年目となる中学入試プレテストの内容充実を図った。

春の学校公開日（1 日）では、来校者数（家族数）は、小学生全体では減少しているが、学校選択の時期が年々早まってきていることから予想されるように、3 年生から 5 年生の来校者層が厚くなっている。部活体験の他に種々の体験授業を開講したが、それぞれに予想を上回る入場者があり、急遽、実施回数を増やすなどの対応を行った。中学生については来校者数が大幅に増加し、聖霊への関心が高まっていると評価されるが、課題達成のために継続して行っている全教員による学校訪問など、積極的な広報活動における成果といえる。

秋の学校公開日では、初日(11 月 10 日)の土曜日に「体験授業」、2 日目(11 月 25 日)、日曜日に中学入試「プレテスト」を実施した。秋の学校公開日の来校者数(家族数)は、前年度に比べると減少しているが、学校公開日企画としてプレテストを導入する以前(2005 年度)と比べ、格段に増加した。

3.財務の概要

【総評】2007年度消費収支決算をもとに、南山学園の収支状況について概括を述べることとする。

2007年度は南山学園創立75周年にあたり、記念事業を実施し、記念事業のメインである南山大学附属小学校（以下「南山小学校」という。）の2008年度開校認可を取得した。愛知県で唯一の男女共学の私立小学校ということで社会的にも関心が高い中で無事に入学試験を実施し、開校することができた。今後は、南山小学校が掲げている7つの「教育の特色」を実践し、期待に応えて行くことが重要となる。

5月1日現在の学園全体の学生・生徒在籍者総数は14,795名である。過去5年間の趨勢をみると、2003年(13,876名)2004年(14,093名)2005年(14,308名)2006年(14,597名)で幸いにも毎年順調な伸びを示しており、特に南山大学の伸びは目覚しく5年間で797名の増加となっている。また南山大学以外の各単位校も、全国的に学生・生徒の確保が難しくなりつつある状況の中で、定員の確保ができています。これから状況はますます厳しくなることを念頭において、入試広報をはじめ既存の態勢を常に見直し、時代のニーズや受験生の動向等に対する情報の確保と迅速な対応ができるように全学で取り組んでいかなくてはならない。在籍者数の増加に伴い、学生生徒等納付金、手数料はそれぞれ前年比207百万円、33百万円の増加となった。手数料収入については、南山小学校の入学検定料収入が増加の主たる要因である。

国庫補助金について南山大学はほぼ同額、南山短期大学は一般経常費補助金で減額となっている。また南山高等・中学校のアスベスト除去工事・耐震補強工事や、聖霊高等・中学校のパソコン更新等に係る施設設備整備費補助金が増額となり、全体では前年度比13百万円の増加である。また、地方公共団体補助金については、愛知県経常費補助金における生徒一人当たり補助単価の増額等の結果、学園内の各高中校で前年度より増額となり、学園全体では前年比106百万円の増額となった。補助金に関してはますます競争的原理が優先され、成果を出した結果に対しての補助という方向性が明確になっている。こうした点を踏まえて、補助金を受けるというのではなく獲得していくという姿勢を構成員全体がよりしっかりと肝に銘じていかなくてはならない。

寄付金は前年度に比して64百万円の減額となった。この主な原因としては、受配者指定寄付金が前年度に比して6千万円減額したことによる。前年度中期以降のサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱や急激な円高、原油高騰などにより多分野にわたる企業の業績悪化が表面化し、寄付金の獲得も困難な状況である、今後とも粘り強く努力していく必要がある。

資産運用収入、有価証券売却差額は、2007年度上期での金融市場の好環境により前年度比15億1百万円を上回る成果をあげることが出来た。ただ一方、上記でも述べたが、年度中期以降の金融市場の大きな混乱により影響を受け、南山学園でも有価証券のロスカット、評価損を計上し前年比14億44百万円の消費支出増額となった。学生生徒等納付金や補助金の収入増加が困難である状況にあって、寄付金と共に帰属収入の中の財源としてウエイトを占めている重要な収入項目であることも念頭に、今後更にリスク管理を徹底し慎重な運用を行わなければならない。

雑収入は前年度比115百万円の増加である。このうち大きな額を占める項目は、私立

大学退職金財団交付金や愛知県私学退職基金財団交付金である。これはその年度の退職金支払いに対して財団から交付されるものである。

以上により、2007年度帰属収入は212億99百万円で、前年度比19億7百万円の増額となり、科目ごとにみれば寄付金と事業収入を除けば、前年度を上回る結果となった。

基本金組入額は49億1千万円であった。明細は以下のとおりである。なお、南山大学は第1号基本金について取崩額が新規組入額を上回ったため、基本金組入額としてではなく、取崩額(1億7百万円)として別表示されている。

第1号基本金：南山小学校校舎建設工事、南山国際中学校空調設備更新工事、瀬戸聖霊キャンパス離れ地造成工事、スクールバス購入等により、33億55百万円の組入れとなった。ちなみに2006年度は39億14百万円であり、5億59百万円の減額である。

第2号基本金：新規組入額12億5千万円、第1号基本金への振替が77百万円で差し引き11億73百万円の組入増である。新規組入は、「南山学園将来構想計画資金3億円」、「南山大学名古屋キャンパス施設設備整備資金5億円」、「南山大学瀬戸キャンパス施設設備整備資金3億円」、「南山短期大学将来計画資金5千万円」、「南山高等学校・中学校男子部校舎改修計画資金6千万円」、「聖霊高等学校・中学校校舎改修・改築計画資金4千万円」である。また第1号基本金への振替は「南山学園瀬戸聖霊キャンパス将来構想計画資金」を瀬戸聖霊キャンパス離れ地造成工事費に充当したものである。ちなみに2006年度は、新規組入額9億3千万円、第1号基本金への振替は8億円であった。

第3号基本金：新規組入額3億8千万円で、「南山学園瀬戸聖霊キャンパス教育環境充実基金3億円」等である。ちなみに2006年度は2億6千万円の組入であった。

第4号基本金：当期組入額2百万円である。ちなみに2006年度組入額は43百万円であった。

消費支出額は180億円で、人件費以下すべての大科目について前年度より増加し、前年度比22億円の支出増加となった。南山小学校開設に向けての費用負担と、退職給与引当金繰入額の増額、ならびに上記で述べた有価証券処分にかかる費用が大きく影響した。

以上の結果、2007年度の当年度消費支出超過額は15億66百万円で、2006年度比8億63百万円の増額となった。自己資金については小学校校舎建設等を実施したものの894億円となり前年度比33億42百万円増加している。学園全体としては、自己資金の増加が図られ財政的には健全であるといえるが、その大きな原動力はやはり南山大学である。ただ、今後学生・生徒・児童の確保はますます困難な状況となることは目に見えているし、それだけに学校運営に対する社会の評価もますます厳しくなるといえる。学園内各単位校が、財政面での責任を果たしながら、各学校が掲げている建学の精神に基づいて学生・生徒・児童の教育を実践していくことが重要である。

以上

資金収支計算書

平成19年4月 1日から

平成20年3月31日まで

< 総括表 >

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	13,194,187,000	13,204,099,584	9,912,584
手数料収入	878,897,000	888,242,257	9,345,257
寄付金収入	313,624,000	335,044,002	21,420,002
補助金収入	2,806,184,000	2,858,111,405	51,927,405
国庫補助金収入	1,319,889,000	1,357,280,100	37,391,100
地方公共団体補助金収入	1,486,295,000	1,500,831,305	14,536,305
資産運用収入	1,948,335,000	3,050,180,688	1,101,845,688
資産売却収入	10,001,455,000	12,670,722,089	2,669,267,089
事業収入	230,231,000	225,144,281	5,086,719
雑収入	468,665,000	510,525,131	41,860,131
借入金等収入	118,485,000	112,628,400	5,856,600
前受金収入	2,993,710,000	3,150,427,522	156,717,522
その他の収入	3,291,782,000	3,480,652,191	188,870,191
資金収入調整勘定	3,555,802,000	3,664,598,378	108,796,378
前年度繰越支払資金	5,182,890,000	5,182,889,722	
収入の部合計	37,872,643,000	42,004,068,894	4,131,425,894
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	10,345,698,000	10,103,056,165	242,641,835
教育研究経費支出	3,620,340,000	3,244,923,263	375,416,737
管理経費支出	1,623,627,000	1,448,446,424	175,180,576
借入金等利息支出	40,396,000	108,809,411	68,413,411
借入金等返済支出	355,244,000	355,243,369	631
施設関係支出	3,180,785,000	3,177,683,248	3,101,752
設備関係支出	523,788,000	501,766,778	22,021,222
資産運用支出	11,606,140,000	16,014,148,507	4,408,008,507
その他の支出	2,969,086,000	2,839,234,751	129,851,249
{予備費}	(81,408,000)		0
資金支出調整勘定	281,064,000	344,913,590	63,849,590
次年度繰越支払資金	3,888,603,000	4,555,670,568	667,067,568
支出の部合計	37,872,643,000	42,004,068,894	4,131,425,894

消費収支計算書

平成19年4月 1日から

平成20年3月31日まで

< 総括表 >

(単位:円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	13,194,187,000	13,204,099,584	9,912,584
手数料	878,897,000	888,242,257	9,345,257
寄付金	322,629,000	349,381,097	26,752,097
補助金	2,806,184,000	2,858,111,405	51,927,405
国庫補助金	1,319,889,000	1,357,280,100	37,391,100
地方公共団体補助金	1,486,295,000	1,500,831,305	14,536,305
資産運用収入	1,948,335,000	3,063,470,423	1,115,135,423
資産売却差額	150,047,000	199,149,580	49,102,580
事業収入	230,231,000	225,144,281	5,086,719
雑収入	468,695,000	511,425,388	42,730,388
帰属収入合計	19,999,205,000	21,299,024,015	1,299,819,015
基本金組入額合計	4,792,147,000	4,909,591,178	117,444,178
消費収入の部合計	15,207,058,000	16,389,432,837	1,182,374,837
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	10,282,551,000	10,005,627,474	276,923,526
教育研究経費	5,044,516,000	4,666,707,895	377,808,105
管理経費	1,884,104,000	1,704,033,477	180,070,523
借入金等利息	40,396,000	108,809,411	68,413,411
資産処分差額	611,959,000	1,470,154,550	858,195,550
徴収不能引当金繰入額	397,000	41,218	355,782
徴収不能額	0	423,600	423,600
{ 予備費 }	(81,408,000)		
	0		0
消費支出の部合計	17,863,923,000	17,955,797,625	91,874,625
当年度消費支出超過額	2,656,865,000	1,566,364,788	
前年度繰越消費支出超過額	9,176,941,000	9,176,940,992	
基本金取崩額	0	107,127,763	
翌年度繰越消費支出超過額	11,833,806,000	10,636,178,017	

資 金 収 支 内 訳 表

平成19年 4月 1日から

平成20年 3月31日まで

収 入 の 部

<総括表>

(単位:円)

部 門 科 目	学校法人	南山大学	南山短期大学	南山高等学校	南山国際高等学校	聖霊高等学校	南山中学校	南山国際中学校	聖霊中学校	総 額
学生生徒等納付金収入	0	10,359,657,884	687,570,000	543,737,500	239,685,100	274,977,500	608,562,500	198,524,000	291,385,100	13,204,099,584
手数料収入	23,807,200	804,612,670	23,263,870	1,267,380	1,182,187	2,072,321	24,062,324	2,759,026	5,215,279	888,242,257
寄付金収入	5,778,000	228,052,850	36,371,930	10,561,640	3,402,422	28,494,990	10,765,960	100,000	11,516,210	335,044,002
補助金収入	884,476	1,269,557,709	60,014,725	469,646,475	138,501,448	321,339,190	345,262,000	93,267,000	159,638,382	2,858,111,405
国庫補助金収入	0	1,268,775,100	59,914,000	2,797,000	1,583,000	4,871,247	14,711,000	0	4,628,753	1,357,280,100
地方公共団体補助金収入	884,476	782,609	100,725	466,849,475	136,918,448	316,467,943	330,551,000	93,267,000	155,009,629	1,500,831,305
資産運用収入	1,392,400,465	1,239,498,713	250,133,368	56,493,767	3,729,543	25,646,903	57,675,935	2,738,621	21,863,373	3,050,180,688
資産売却収入	12,669,269,509	1,043,349	0	134,300	72,450	0	137,870	64,611	0	12,670,722,089
事業収入	0	188,538,213	19,885,150	0	0	9,024,279	0	0	7,696,639	225,144,281
雑収入	15,039,428	215,978,426	134,534	76,577,892	29,349,702	40,446,054	94,638,905	200,604	38,159,586	510,525,131
借入金等収入	0	0	0	43,268,500	8,114,900	53,890,000	7,355,000	0	0	112,628,400
計	14,107,179,078	14,306,939,814	1,077,373,577	1,201,687,454	424,037,752	755,891,237	1,148,460,494	297,653,862	535,474,569	33,854,697,837

支 出 の 部

<総括表>

(単位:円)

部 門 科 目	学校法人	南山大学	南山短期大学	南山高等学校	南山国際高等学校	聖霊高等学校	南山中学校	南山国際中学校	聖霊中学校	総 額
人件費支出	332,090,071	6,254,197,812	433,738,603	889,602,941	340,342,068	583,412,851	730,077,152	215,167,637	324,427,030	10,103,056,165
教育研究経費支出	62,835,906	2,657,772,239	116,312,116	111,643,792	37,229,104	55,587,524	130,041,949	28,460,038	45,040,595	3,244,923,263
管理経費支出	524,146,127	783,998,516	39,387,921	12,236,842	14,627,579	18,799,192	27,084,444	11,396,637	16,769,166	1,448,446,424
借入金等利息支出	69,900,000	4,573,820	7,794,582	9,573,837	15,250,451	528,505	556,713	185,008	446,495	108,809,411
借入金等返済支出	0	33,330,000	30,000,000	131,590,507	67,543,335	55,270,207	33,126,250	0	4,383,070	355,243,369
施設関係支出	2,956,038,680	120,045,817	39,467,353	19,191,726	0	0	20,745,223	22,194,449	0	3,177,683,248
設備関係支出	196,154,468	234,732,143	8,001,015	2,874,557	1,935,744	29,085,656	4,046,461	938,028	23,998,706	501,766,778
計	4,141,165,252	10,088,650,347	674,701,590	1,176,714,202	476,928,281	742,683,935	945,678,192	278,341,797	415,065,062	18,939,928,658

消費収支内訳表

平成19年 4月 1日から

平成20年 3月31日まで

消費収入の部

<総括表>

(単位:円)

部 門 科 目	学校法人	南山大学	南山短期大学	南山高等学校	南山国際高等学校	聖霊高等学校	南山中学校	南山国際中学校	聖霊中学校	総 額
学生生徒等納付金	0	10,359,657,884	687,570,000	543,737,500	239,685,100	274,977,500	608,562,500	198,524,000	291,385,100	13,204,099,584
手数料	23,807,200	804,612,670	23,263,870	1,267,380	1,182,187	2,072,321	24,062,324	2,759,026	5,215,279	888,242,257
寄付金	8,405,496	231,950,219	36,499,803	12,210,701	6,892,497	29,446,789	11,816,830	399,976	11,758,786	349,381,097
補助金	884,476	1,269,557,709	60,014,725	469,646,475	138,501,448	321,339,190	345,262,000	93,267,000	159,638,382	2,858,111,405
国庫補助金	0	1,268,775,100	59,914,000	2,797,000	1,583,000	4,871,247	14,711,000	0	4,628,753	1,357,280,100
地方公共団体補助金	884,476	782,609	100,725	466,849,475	136,918,448	316,467,943	330,551,000	93,267,000	155,009,629	1,500,831,305
資産運用収入	1,405,690,200	1,239,498,713	250,133,368	56,493,767	3,729,543	25,646,903	57,675,935	2,738,621	21,863,373	3,063,470,423
資産売却差額	199,139,644	160	0	4,662	501	0	4,540	73	0	199,149,580
事業収入	0	188,538,213	19,885,150	0	0	9,024,279	0	0	7,696,639	225,144,281
雑収入	15,051,008	216,867,103	134,534	76,577,892	29,349,702	40,446,054	94,638,905	200,604	38,159,586	511,425,388
帰属収入合計	1,652,978,024	14,310,682,671	1,077,501,450	1,159,938,377	419,340,978	702,953,036	1,142,023,034	297,889,300	535,717,145	21,299,024,015
基本金組入額合計	3,627,153,616	881,094,902	124,195,222	91,975,188	52,226,361	65,706,450	31,834,071	8,348,769	27,056,599	4,909,591,178
消費収入の部合計	1,974,175,592	13,429,587,769	953,306,228	1,067,963,189	367,114,617	637,246,586	1,110,188,963	289,540,531	508,660,546	16,389,432,837

消費支出の部

<総括表>

(単位:円)

部 門 科 目	学校法人	南山大学	南山短期大学	南山高等学校	南山国際高等学校	聖霊高等学校	南山中学校	南山国際中学校	聖霊中学校	総 額
人件費	330,182,171	6,184,467,822	432,539,803	875,224,407	334,089,468	582,451,686	725,490,433	217,729,117	323,452,567	10,005,627,474
教育研究経費	62,835,906	3,594,114,124	167,797,497	188,601,461	186,295,292	116,905,036	204,268,708	89,954,064	55,935,807	4,666,707,895
管理経費	562,020,044	933,570,480	47,297,436	17,250,614	31,441,896	41,206,990	32,089,323	22,380,565	16,776,129	1,704,033,477
借入金等利息	69,900,000	4,573,820	7,794,582	9,573,837	15,250,451	528,505	556,713	185,008	446,495	108,809,411
資産処分差額	1,421,453,987	43,117,210	641,247	2,199,576	112,019	1,051,118	1,521,613	57,775	5	1,470,154,550
徴収不能引当金繰入額	0	0	41,218	0	0	0	0	0	0	41,218
徴収不能額	0	0	0	0	0	0	0	0	423,600	423,600
消費支出の部合計	2,446,392,108	10,759,843,456	656,111,783	1,092,849,895	567,189,126	742,143,335	963,926,790	330,306,529	397,034,603	17,955,797,625

貸借対照表

平成20年3月31日現在

< 総括表 >

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	79,488,006,500	76,079,112,086	3,408,894,414
有形固定資産	49,923,335,098	47,960,723,142	1,962,611,956
その他の固定資産	29,564,671,402	28,118,388,944	1,446,282,458
流動資産	18,216,996,322	18,308,213,764	91,217,442
資産の部合計	97,705,002,822	94,387,325,850	3,317,676,972
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	3,735,534,476	4,053,715,960	318,181,484
流動負債	4,548,594,388	4,255,962,322	292,632,066
負債の部合計	8,284,128,864	8,309,678,282	25,549,418
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	70,387,068,911	67,139,673,980	3,247,394,931
第2号基本金	2,666,096,480	1,492,669,480	1,173,427,000
第3号基本金	25,863,886,584	25,484,245,100	379,641,484
第4号基本金	1,140,000,000	1,138,000,000	2,000,000
基本金の部合計	100,057,051,975	95,254,588,560	4,802,463,415
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	10,636,178,017	9,176,940,992	1,459,237,025
消費収支差額の部合計	10,636,178,017	9,176,940,992	1,459,237,025
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	97,705,002,822	94,387,325,850	3,317,676,972

学校法人南山学園財産目録[2008年3月31日現在]

(単位 円)

.資産総額	97,705,002,822	(10)電話加入権	208回線	10,917,287
内 1.基本財産	46,796,165,418	(11)施設利用権	12件	116,851,801
2.運用財産	50,908,837,404	(12)長期貸付金	508口	466,839,662
.負債総額	8,284,128,864	(13)差入保証金	4口	17,322,014
.正味財産	89,420,873,958	(14)商標権	1口	112,035
		(15)貯蔵品	諸口	5,862,733
		(16)未収入金	諸口	1,352,183,474
.資産	97,705,002,822	(17)前払金	諸口	76,823,234
		(18)立替金	2口	172,457
1.基本財産	46,796,165,418	.負債		8,284,128,864
(1)土地	391,251.42 m ²	1.固定負債		3,735,534,476
(2)建物	221,377.98 m ²	(1)長期借入金	43口	1,420,970,075
(3)構築物	520件	(2)退職給与引当金	諸口	1,910,716,521
(4)図書		(3)長期預り金	諸口	403,847,880
ア)図書	1,031,989冊	2.流動負債		4,548,594,388
イ)学術雑誌	19,041種類	(1)返済期限が1年以内の長期借入金	45口	358,986,216
ウ)視聴覚資料	13,855種類	(2)前受金	14,692口	3,150,427,522
(5)教具・校具及び備品	37,505点	(3)未払金	諸口	279,128,834
		(4)預り金	諸口	760,051,816
2.運用財産	50,908,837,404			
(1)現金・預金	諸口			
(2)積立金	諸口			
(3)第3号基本金引当資産	諸口			
(4)有価証券	諸口			
(5)退職給与引当特定資産	1口			
(6)不動産				
ア)土地	106,239.00 m ²			
イ)建物	15,953.84 m ²			
(7)構築物	44件			
(8)車輜	38台			
(9)借地権	177.24 m ²			

監査報告書

2008年5月19日

学校法人南山学園

理事長 ハンス ユーゲン・マルクス殿

学校法人南山学園

監事 石橋恭助

監事 日野哲也

1. 私立学校法第37条第3項及び学校法人南山学園寄付行為第15条により、
2007年度決算書類を監査の結果、同書類はいずれも正確に計上され、学校法人会計基準に則って正しく計算処理されておりますので、これを適正と認めます。
2. 同じく私立学校法及び寄付行為同条同項によって本学校法人の業務又は財産の状況について監査することになっておりますが、理事会には監事が常に出席し、随時必要な意見をのべており、本学校法人の業務又は財産の状況につきまして、違法行為等はなく適正であると認められます。

以上